

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 90 2012年9月22日発行
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

放射線汚染地域に住む病気の 子どものための特別保養

Summer, 2012



ベラルーシ



ウクライナ

みなさまの募金のおかげで、今年も

子どもたちを保養に招待することができました

2013年チェルノブイリ救援カレンダー 10月中旬完成予定
詳しくはニュース紙面とチラシをご覧ください

放射線汚染地域に住む病気の子どもたちのための特別保養

2012年6月~7月 ベラルーシ / ウクライナ

ベラルーシ・ウクライナのサナトリウムでの保養が無事終了しました。ベラルーシでは森と湖、ウクライナでは海、それぞれ汚染されていない新鮮な空気と安全で栄養バランスのとれた食事をすることで、心身の健康回復をはかることがこの保養の重要な目的です。

~*~

ベラルーシ

場所：児童健康回復センター 「希望21」 ミンスク州
ビレイカ地区／期間：2012年6月15日～7月8日／参加者：子ども34人（8～17歳）、引率者1人、教育担当者2人

甲状腺がんの他、目の腫瘍、腎臓がん、骨のがん、白血病などの子どもがゴメリ州各地（ゴメリ市、レチツア市、カリンコヴィチ市、モーズィリ市、及び周辺の村）から参加しました。初めて参加した子どもは13人、里親支援を受けている子どもも多くいました。保養期間中はそれぞれの体調に応じた治療（マッサージ、リハビリ体操、アロマテラピー、薬草茶、歯科治療）を受けながら、自分の好きなクラブ活動（絵画、陶芸、木工細工、手芸、コンピュータグラフィック、デジカメ）や、催し物（歌、ダンス、芝居、ゲーム、キャンプファイヤー、サイクリングなど）に参加しました。サナトリウムから徒歩15分くらいのところに人造湖があり、子どもたちはそこで泳ぐのを楽しみにしていました。

同時期、サナトリウム内には、ベラルーシのスポーツ合宿（サッカー、フィギュアスケート）のグループや、ロシアの寄宿学校のグループなども



滞在していました。特別保養の子どもたちのほとんどは、他のグループの健康な子どもたちのように運動ができませんので、スポーツ大会では他のグループの子どもたちを応援しました。一方で彼らは、歌や芝居、詩の朗読など、自分の得意なことを舞台で披露していました。絵や陶芸の教室に熱心に通い、いくつもの作品を完成させた子どももいました。初めて参加した8歳の女の子は、到着から数日

後に体調が悪くなり、近くの町の病院に運ばれました。医師の判断で、サナトリウムには戻らず、そのまま自宅に帰ることになりました。彼女は最後まで、「サナトリウムで友達と一緒に過ごしたい」と残念がっていました。他にも、熱を出し数日間隔離病棟に入っていた子どもも何人かいましたが、大事には至らず、最終日まで無事に過ごすことができました。

<子どもの感想>

◆何もかもが楽しかったです。日本の皆さん、ありがとうございます。（G・ナースチャ

11歳 レチツア市）

◆私はこのサナトリウムが大好きで、帰りたくありません。教育大学に入つて先生になり、ここで働きたいくらいです。

（Z・ヴィオレッタ 14歳
ゴメリ市）

◆このような素晴らしい保養に招待してくれた日



本の皆さん、ほんとうにありがとうございます。

(L・エレーナ 17歳 ゴメリ市)

<引率者の感想>

私の子どもも病気ですので、他の子どもたちの問題をよく理解しています。彼らはみな免疫力がとても低いです。一緒に過ごしていくうちに、みんな自分の子どものように思えました。最後はみんなが一つの大きな家族のように仲良くなりました。ベラルーシにこんな素晴らしいサナトリウムがあることを知りませんでした。毎日、治療や教室・催し物があり、時間があつという間に過ぎました。スタッフがみんな優しく心のこもった対応をしてくれることが素晴らしいです。医師や看護師たちもいつでも子どもたちを診てくれます。この保養に招待してくれた日本のみなさんと、サナトリウムのすべてのスタッフに感謝します。(S・エレーナ 26歳 カリンコヴィチ市 腎臓がんの手術を受けた8歳の息子と共に参加した。)

「希望21」は、ベラルーシの放射線汚染地域の子どもたちの健康回復を目的に作られた学校サナトリウムです。汚染地域の子どもたちは、1年に1度、24日間、学校単位で保養をします。子どもたちの滞在費はベラルーシ政府が負担していますが、不足分をドイツのNGOや子ども基金が負担することで、他の国立の保養所よりも良質の保養を提供しています(設備、治療、食事、教育などの面において)。子ども基金は設立当初から運営費のほか、医薬品、楽器・文具・スポーツ器具などの援助をしています。10年以上前に贈ったコンピュータが老朽化したため、新たに12台を支援しました(7600ドル)。「多目的学習室」としてオープン

した教室で、子どもたちは早速、新しいコンピュータを使って学習していました(写真・下)。

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*

ウクライナ

場所: 国立子どもサナトリウム クリミヤ エフパトリヤ市 / 期間: 2012年6月9日~22日 / 参加者: 子ども20人(9~14歳)、引率者4人

参加した子どもたちが暮らしているロヴノ州ロキトノ市と周辺の村、ジトーミル州オブルチ市は、放射能汚染管理区域にあたります。参加した子どもの多くに、骨の異常(側湾症など)、胃や気管支の問題があります。腎孟炎、先天性の足の麻痺のある子どももいました。サナトリウムの建物・

設備は古いものの、専門の医師が滞在し、骨や呼吸器官の療養には大変適したサナトリウムです。子どもたちはそれぞれの病状に合った鉱泉療法やマッサージ治療、運動療法を受けました。また、海の空気が呼吸器官の病気には大変良いと言われています。このサナトリウムには、ウクライナだけでなく、ロシアや旧ソ連の国々からも、

手術・治療・療養のために、多くの親子連れが滞在していました。敷地内では、親に付き添われた松葉杖や車椅子、移動式ベッドにいる子どもたちの姿が多く見られます。浜辺はこのサナトリウムの滞在者しか利用できないようにな

っているため、安心して過ごすことができます。手すりや、車椅子用の設備も完備されています。しかし、昨年までに比べて、食堂で出される食事の野菜・果物が少なくなり、全体的に質が低下していました。同行したキエフの慈善団体「チャルノブイリ子どもたちの生存」代表ザクレフスカヤさんは「国はこのサナトリウムへの予算まで切り詰めたか」と言いました。



<子どもの感想>

◆海でたくさん泳いだり遊んだりしました。この保養に招待してくれた日本の基金に感謝します。

(イリヤ 13歳)

ロヴノ州オスニチク村)

◆とてもきれいな環境で気に入りました。みんなで泳いだりして過ごしました。食事もおいしかったです。(ヴィーカ 12歳 ロキトノ市)

◆いろいろな木や花が咲いていてきれいなところ。このサナトリウムはとても楽しかった。日本の皆さん、ありがとうございます。(スタシク 9歳 オブルチ市)

◆治療を受けたり、海で泳いだり、街を散歩したりして楽しかった。できたらまたここに来たいです。(ディーマ 11歳 オブルチ市)

<引率者の感想>

◆汚染地域の子どもたちは体が弱く、よく風邪をひき、病気が治りにくいのです。骨や心臓に問題がある子どもも多いです。今年ウクライナでサッカー欧州選手権が行われ、空港が新しくなったり、ホテルが建設されたりしました。そういうお金があるのなら、少しは汚染地域の子どもたちのために使ってほしいです。

Chernobyl accidentが起きたまで私はプリピヤチ市に住んでいました。夫は原発の労働者でした。事故後、キエフ市に移住しました。103人いた同僚のうち今生きているのは20人くらい。昨日まで元気だった人が急に具合が悪くなり、あつ



という間に亡くなる、という感じです。(M・リュドミラ 60歳 元看護士)

◆子どもたちは年に1度サナトリウムに保養に行く権利があります。しかし実際には完全には実行されていません。保養に行ったとしても、汚染地内のサナトリウムであったり、秋冬などの寒い時期であったりすることが多く、本当の保養になっているとは言えません。ですから、このようなよい時期に素晴らしいサナトリウムに招待してもらえてとても感謝しています。汚染地域に住んでいる子どもたちの健康にはとても大事なことです。これまで引率者としてウクライナのいろいろなサナトリウムに行ったことが

ありますが、全ての面において、ここは一番よいサナトリウムだと思います。

ロキトノ地区が汚染されていることを初めて知られたのは91年だったと思います。高い値だから移住しなければいけないかもしれない、という話でした。その後、別の人たちが測りに来て、その人達は「前に測った時は機械が壊れていた。ここは住み続けても大丈夫」と言いました。それで、今までずっと住み続けています。地区には食品の放射線測定器が1台しかありません。1年前に壊れましたが、そのままです。地元でとれた野菜、森のきのこやベリー類を食べ、冬は森の木を薪暖房用に使います。私たちは1年中放射能と共に暮らしているのです。ここでとれたキノコやベリー類は、主にポーランド等に輸出されています。それが瓶詰などになってまたウクライナに輸入されます。放射線管理区域のものですよ！それから、この区域で作られたじゃがいもはウクライナ中に流通します。(M・ミハイル 49歳 ロキトノ市 学校の教師)

(報告：佐々木真理)

報告会

「2012年夏 子どもたちの保養 チェルノブイリと福島」

チェルノブイリ被災地（ウクライナ・ベラルーシ）の子どもたちの現状・保養の報告と、

沖縄で行われた福島の子どもたちの保養について報告します。

<日時> 2012年11月25日（日）14：00～16：00（13：30開場）

<場所> JICA 地球ひろば セミナーホール600（JR・東京メトロ「市ヶ谷駅」より徒歩10分）
入場無料

<報告>

◆佐々木真理（「チェルノブイリ子ども基金」事務局長）

チェルノブイリ汚染地域に暮らす子どもたち～転地療養と家族訪問の報告～

◆津布久賢三郎（「未来の福島こども基金」世話人）

福島の子どもたちの保養 沖縄・球美の里

◆黒部信一（小児科医、「未来の福島こども基金」代表、「チェルノブイリ子ども基金」顧問）

福島の子どもたちの健康相談会について（仮）

<主催> チェルノブイリ子ども基金／未来の福島こども基金

<問合せ先> チェルノブイリ子ども基金 事務局

TEL/FAX : 03-5228-2680

E-mail : cherno1986@tokyo.email.ne.jp

チエルノブイリ 27周年救援カレンダー ～チエルノブイリと福島の子どもたち～

2013年カレンダーは、チエルノブイリと福島の子どもたちの絵と詩により構成されています。

自宅用に、職場用に、またプレゼント用にも最適です。
どうぞ周りの方々にも広めてください。

○カラー

○サイズ：縦42cm×横30cm 見開きA3サイズ

○デザイン：スタジオ・ギブ

年10月中旬完成
約受付中！

【定価】1000円（送料別） 【送料】2部まで100円、3～9部ま

で実費（10部以上：1割引き／送料無料）

【お申込み方法】Fax、E-mailまたは郵送でお申し込みください。

【お支払方法】カレンダーが届きましたら、同封の郵便振替用紙でお振込みください。

～カレンダーの収益は、チエルノブイリと福島の原発事故による被災児童のための救援金にあてられます～



2012年6月 家族訪問(1) ベラルーシ

報告 佐々木 真理

5月12日・13日、スイス・ジュネーブで開催された「放射能防護に関する科学者と市民フォーラム」の中で、ベラルーシの小児科医ガリーナ・バンダジエフスカヤさんは「ベラルーシでは子どもの健康が悪化し、人口が減っている。チェルノブイリの悲劇は増えている、過去形で話すことはできない」と述べました。この言葉の通り、チェルノブイリの悲劇は現在進行中なのです。

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

B・ナザール 2008年生まれ

ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ地区
ドウジチ村

後縦隔（胸膜により左右の肺の間に隔てられた部分）神経芽細胞腫。生後2ヶ月で発病。

2009年に手術を2度受けた。腫瘍は、母の胎内にいる頃からでき始めていた、と医師から説明を受けた。抗がん剤治療が6ヶ月続き、5回危篤に陥った。チェルノブイリ事故が原因の障がい児に認定されている。背骨に問題があるため歩くことができず、介添えがないと座ることもできない。ナザールの母親「両親や妹たちが近所に住んでいて、畑の野菜を分け合ったり、お互いの子どもの面倒をみたりと、助け合って暮らしています。長女のアリーナは、家の手伝いもよくするし、弟の面倒もよくみてくれます。ナザールは定期的に背骨のマッサージ（有料）を受け、ミンスク市の泌尿器科の専門医にもかかっています。病院ではベラルーシ製の薬は無料で処方されますが、外国製の薬は買わなければなりません。病院では外国製の薬をすすめられ



ます」「ナザールは里親から送っていただいたパンダのぬいぐるみといつも一緒に過ごしています。日本のお菓子は親戚の子どもたちにも分けてあげました。私達をこんなに思ってくれる日本の友人ができたことが、何よりうれしいです」大変な状況にもかかわらず、母親もその妹たちもとても明るい。

菜園には野菜の他に、ベリー類やリンゴの木もある。ちょうどブルーベリーが食べ頃で、直接もいで口に入れていた。庭にナザールのための手作りのプランコもある。母親が座らせてこぐと、楽しそうに笑っていた。

同行した慈善団体の代表者ポホモワさんは、「あの子の足をなんとかしなければ、このままでは一生歩けなくなってしまいかねない」と心配していた。この村では他にも、骨に異常のある子どもなどはいるそうだが、ガンの子どもはナザール1人だという。

K・マトヴェイ 2005年生まれ

ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ市

右側頭部の髄膜炎。2006年に手術。手術時に大脳に浮腫が現れたため、骨を元の位置に

戻すことができず、頭蓋欠損のまま退院。2007年、腫瘍摘出の再手術。頭の骨がふさがっていない状態で、常に注意が必要。14歳くらいになつたら人工的なもので欠損部をふさぐ手術をする予定。

母親リリヤ「マトヴェイは体が弱く病気にかかりやすいため、通学はしていません。2週間前も40度の熱がでした。小さい頃の怖い思い出のせいか、今でも病院や医者を怖がります。普段は、学校の先生が家に来て勉強をみてくれますが、週に1-2回学校に行くこともあります。近所の普通の子どもが通う学校ではなく、少し家から遠いけれど、少人数の家庭的な雰囲気の学校を選びました。マトヴェイの健康状態のことを先生達と相談し、学校側はよく理解してくれています。マトヴェイは学校に行くのをいつもとても楽しみにしています。学校に行く前の日は、お祭りの前の日のようです。“遅刻したら大変だから早く寝よう！”と言っています。数年前までは痙攣防止の薬を飲んでいました。今は精神安定剤とビタミン剤をときどき飲んでいます。以前、甲状腺肥大と診断されていましたが、冬の検査では正常に近づいているという結果がでした。次回の定期検査は7月です」

リリヤは学校の教師。昨年8月に甲状腺ガンの手術を受けた。「検査の結果、緊急に手術が必要と言われました。手術後は体が疲れや



すくなつたと感じています。自分が病気とわかった時に、一番先に考えたのはマトヴェイのことでした。自分がいなければ誰がこの子の面倒をみるのか。早く手術して、早く退院しなければ、とそれだけを考えました」3年前に訪問した時に比べ、リリヤは瘦せてはいたが、快活でとても前向きだった。兄のマクシムは成績もよくスポーツも得意。家の手伝いもよくするし、弟の面倒もよくみている。父親イーゴリは仕事を失い、今は求職中。この

町ではよい仕事をみつけるのが難しく、今は仕事があれば何でもしているという。この日は、品物を運送するアルバイトをしていた。

S・ヴェーラ 2009年生まれ
ベラルーシ ゴメリ州
ホイニキ地区
ストレリチエヴォ村

先天性疾患。右耳の下から右頸にかけてのリンパ管腫。
2010年ゴメリ市の病院で手

術した時には、すべての腫瘍は取り除かれなかつた。翌年ロシア モスクワ市の病院で手術。ベラルーシの病院での手術は無料だが、ロシアの病院ではすべて有料。手術費用は高額で、親戚や知人などから借金をしなければならなかつた。また、母親の分と合わせた二人分の交通費も安くはない。父親は、自分の娘が病気だとわかると、だんだん家族から離れていく、娘が生後10カ月のときに離婚。その後、養育費も支払わず、手術費用の援助も断つた。7歳年上の兄セルゲイは、妹の面倒をよくみて

くれるという。

母親のガリーナは（1982年生まれ）は、17歳の時、両親と共にカザフスタンからこの村に移住してきた。チェルノブイリ事故後、この村は放射線による汚染地となり、多くの住民が引っ越し、空き家が多くなった（今でもこの村から5キロ先は高濃度汚染地区のため立ち入りが禁止）。その後、90年頃からカザフスタン、アルメニア、ウズベキスタンなどから難民が移り住むようになった。ガリーナは、働きながら通信制で経理を学んでいる。両親は近くに住んでいて、ガリーナが仕事に行っている間、ヴェーラの面倒をみている。ガリーナ「この村が放射能汚染地であることはわかっていますが、他に行くところもないのです。仕方ありません。食べる野菜は両親のうちの畠のものです。この村には放射線を測定する機械はありません。村では大人、特に大人の女性の病気のことはよく耳にしますが、重い病気の子どもはこの子だけだと思います」

カリンコヴィチ市からこの村へ向かう途中、



いくつかの村と森を通り過ぎる。森には数メートルおきに放射能マークの札が立っている。道端の休憩小屋には、明らかにこの森で摘んだと思われるベリーの入ったバケツを置いてくつろぐ人たちを何人も目にした。同行したポホモワさんは、「こういう森で採ったものが路上などで売られるのです」と言った。森が終り、集落が始まると放射能の札はなくなる。それは、「そこで放射能がなくなるのではなく、人が住んでいるところだから立てない、ということなのです」と言った。

G・コーリヤ 2000年生まれ

ベラルーシ モーズィリ市

急性リンパ性白血病。2005年12月に発症。化学療法を受けた。その後、甲状腺機能減症、神經感染症の後遺症により急性肺炎、心膜炎、ホルモンバランスの障害による脂肪過多症が起きた。現在は甲状腺ホルモン剤とカルシウム剤を服用。検査とリハビリのため年に2回ミンスク市の病院へ通院。チェルノブイリ障がい児に認定されている。両親は離婚。母親、

妹、弟と共に、母方の祖父母の家で暮らしている。母親は地区の孤児院で心理カウンセラーの仕事をしている。「前の夫からは何の援助もありません。当てにしていません。私にはこんな素晴らしい子どもたちがいます。だから1人でも生きていけます。コーリヤはおとなしくて本当にいい子です。この子の健康だけが望みです。上に病気の子どもがいる母親に、医者は普通、次の子どもをあまりすすめませんが、私の場合は別でした。コーリヤには将来、骨髄移植が必要になるかもしれません。だからドナーとなってくれる子どもを生みなさい、と言われたのです。幸いなことにコーリヤの弟は健康です」母親は明るく笑いながらこう話した。コーリヤはおだやかな笑顔で黙って母親の話を聞いていた。

～～*～*～*～*～*～*～*～*～*

1998年から開始した里親制度により、これまでに245人の子どもが支援を受けた。現在支援を受けているのは77人。当初、里親からの支援を受けた人々は、大学や専門学校を卒業、就職、結婚した人も多い。

Z・エレーナ(28歳)は、レチツツア市で夫・息子と暮らしている。子どもの健康に問題は



ないが、自分の体調はあまりよくない。「子どもの世話がありますので、自分のことにはあまりかまつていられません。夫は仕事で長く家を空けることが多く、両親は村に住んでいて、あまり頻繁には手伝いに来てもらえないのでも、なかなか病院にも行けません」

L・アレクサンドル(26歳)は、ゴメリ市で妻・息子と暮らしている。「里親のYさんとのことを忘れる事はありません。私が一番大変な時期に助けていただきました。ご支援は本当にありがとうございました。おかげで私は学



校を無事卒業し、就職することができました。どんなに感謝しても足りません」

一方、健康上の問題から自立することができない若者もいる。脳性小児麻痺で、甲状腺がんの手術を受けたG・アレクセイ(28歳)は、ゴメリ市で母親と暮らしている。最近、食道を患い入院していた。母親もあまり体調がよくない。アレクセイは学校を卒業後、町の障がい者施設に通っている。バスに乗って通うことを楽しみにしているという。「息子は数を数えることができないため、1人で買い物もできません。今は私がいるからよいですが、もし私がいなくなったら、息子は一体どうやって生きていくのか・・・」と母親は話した。



里親のページ

里子の家族からの手紙

◆私たちの悲しみに心を動かされ、ご援助の手を差しのべて下さっていることに感謝申し上げます。他人の悲しみに無関心でいられない、という人はそう多くはありません。そして、そういう友人を持っているということが、私たちにはとても嬉しいことです。ディーマは5年生を終了しました。クラスメイトに遅れをとらないようにずいぶん努力しています。でも病気がなかなか思うようにさせてくれず、私たちは常に学習内容を追いかけなくてはならない状態です。夏は個人的に先生たちのところへ行って、学習の遅れを取り戻したいと考えています。ディーマは他の子どもたちと同じように勉強したいと思っているので、とても努力しています。とても落ち着きのある子で、学校でほめられています。体調はそう悪くありません。急激な悪化というのもありません。ただ、脊柱がいくらか曲がっていて、左側がどうしても正常になりません。運動療法を受けて手足を動かしていますが、今のところまだ目立った効果はありません。休むことなくリハビリに通ってあらゆる治療を受けています。ディーマは社交的で積極性があるので、友だちがたくさんいます。いつも友だちがやってくるので、本当にひとりでいることがありません。私たちはディーマに早くよくなってほしいと思っています。子どもの健康というのは、家族にとって最上の贈り物です。私たちはみなディーマを愛していて、どんな不愉快なことからも守ってやっています。

私たちはあなたの祈りが神様に届いて、私

たちの運命にあなたのご支援やあなたの存在そのものを感じることができる、ということに感謝しています。本当にありがとうございます。私たちも、あなたとあなたのご家族のご健康を祈っています。いつも不幸がみなさんを避けていきますように、いつもみんなさんの心に神様が寄り添っていますように。マレーエフ家より（ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ地区スィロド村）

◆あなたの大変寛大なお心に、心からお礼を申し上げます。私たちの状況を理解し、援助をしてくださり、本当にありがとうございます。実際のところ、ここベラルーシでの私達の生活は大変苦しいものです。私と娘のクリスチーナは、幼いころから身体障がい者として年金をもらっています、しかしその年金も私たちにとっては薬代にも足らず、病弱なクリスチーナはしおりつちゅうどこかが痛んでいます。でも私たちは気落ちすることなく、いつかもっと状況が良くなることを願っています。お写真でみるTさんは、とてもきれいで優しそうで、あなたとお知り合いになれたことを心より嬉しく思いました。そして、もしあなたを私たちの家にお招きし、お会いす



ることができたら、どんなに嬉しいことでしょう。家族全員より、心からの愛をこめて。クリスチーナの母より（ベラルーシ ゴメリ市）

里親制度について詳しくお知りになりたい方は
事務局へお問い合わせください。資料をお送り
します。

緊急支援の続報

S・ミーシャ 1981年生まれ ウクライナ

悲しいお知らせです。子ども基金が治療費用を支援したミーシャが、7/18に亡くなりました。

友人のヴィクトルより「ミーシャと最後に話をしたのは7/14。そのとき彼は、“体調はよくないが、闘っていくつもりだ。僕は家庭をつくり、子どもをもち、普通の暮らしがしたい”と言っていました。その4日後、彼は心臓停止により亡くなりました。亡くなる数日前から入院しており、父親とミーシャの恋人が付き添っていました。ミーシャは心臓の不調を訴えていましたが、医師は何の検査もせず、検査を始めた時にはもう遅かったと・・・。薬はがんの転移は止めましたが、残念ながら、心臓に余病を併発したのです。ミーシャは人生でやりたいことがまだたくさんあったのに、あまりにはやく逝ってしまった」

ミーシャの死は、“甲状腺がんによる死者数”には数えられないでしょう。直接の死亡の原因ではないからです。しかし、原発事故がなければ、そして甲状腺がんにからなければ、このようなことにはならなかつたでしょう。必死に生きようとしていたミーシャ、どんなに無念であったことか。心よりご冥福を祈ります。

~~~~~

H・ウラディスラフ

1996年生まれ ウクライナ

ジトーミルツィ オブルチ市

腎臓移植手術の費用を支援したウラディスラフの自宅を、6月末に訪問しました。手術は4月に行われ、自宅療養中でした。母親ターニャは、2月に会ったときとは別人のように明るい笑顔でした。

「息子を助けていただき、どんなに感謝しても足りません。私達には希望が見えてきました。おかげ



で私は笑うことができるようになりました。息子は小さい時からほとんど病院で過ごしていました。今はこうして家にいてくれることが本当にうれしいです。まだ疲れやすく、感染症にかかる心配がありますので、しばらく外に出ることはできませんが、早く元気になって友だちに会いたいと言っています」

### <家族からのお礼の手紙>

日本のみなさんへ

多大なるご援助、人道的なお心遣いをいただき、心より深い感謝の気持ちをお伝えいたします。みなさんのおかげで、私の息子は本当の意味で、美しい喜びの世界、苦痛や涙のない子どもの世界へ入ることができました。息子を援助し、希望と信念を教えてくださったことへの感謝の気持は、言葉では表しきれません。みなさんは、私たちに新たに生き始めるチャンスをくださいました。

今でも息子の手術跡を見ると涙があふれます。でも一番恐ろしいときは過ぎ去っていったのです。援助を必要とする人たちが増加していくという困難な時に、他人の不幸を自分のことのように思える人を見つけるというのは難しいことです。そのような人々がいるということはなんと素晴らしいことでしょう！

みなさんの熱い思い、寛大な心、慈悲の気持そしてご親切は、人生をより素晴らしいものにします。このような行いは、深い尊敬に値するものです。

ご親切と思いやりを本当にありがとうございます！みなさんは私達に金銭的援助だけでなく、喜びや希望もくださいました。そのご親切や支援が何倍にもなってみんなのもとに戻りますように。ますますのご発展とご健勝をお祈りいたします。

敬意と感謝をこめて  
(左写真：母、妹とウラディスラフ)

## 黒部ドクターのお話



「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」のメンバーとして、先日もその会と避難ママネットの会とで、東京の2か所で相談会を行いました。そこでは相談が主で、診察は甲状腺を触診する程度で、検査も行っていません。放射線の害が主にがんと白血病に絞られて語られる傾向にありますが、それは形態的異常を伴うので見つけやすく、数値化しやすいからです。

放射線の内部被ばくでは全身に及びますから、すべての臓器に障害が生じます。 Chernobyl では今でも低線量被ばくが続き、子どもの病気が絶えません。最近は脳腫瘍も増えていますし、先天性異常として骨の異常が見られ、Saldamidae 以来の四肢の異常を持つ子が生まれています。

機能的異常としては、疲れやすい、風邪をひきやすい、頭痛、めまい、手足などの骨が痛むなどの症状が出ていますが、検査にはなかなか引っかかるからです。現地の小児科医たちは、子どもの90%は病んでいると言いますが、データ化出来ないです。もちろん甲状腺の異常は出ておかしくなく、検査しても悪くはないですが、引っかかる確率は極めて低いと想定されます。今の段階では、私たちは血液検査を勧めていませんし、腹部エコーも甲状腺エコーも勧めていません。先進国での子どもの甲状腺がんになる確率は極めて低く、また触診や視診で見つかり、早期発見すれば死亡率は2、3%です。

放射性ヨードだけでなく、放射性セシウムでも甲状腺がんは発生します。ベラルーシでは今でも甲状腺がんが発生しています。

私たちが勧めているのは、ホールボディカウンターで内部被ばく線量を測定することですが、その数値をどう評価し、判断するかにも問題があります。原発のある県の一か所の指定病院にはホールボディカウンターがあるはずです。しかし、国の予算で配置された病院（多くは大学病院）では、一部の大学病院を除いて、データを教えてくれず、大丈夫ですか高いですか教えてくれません。それで私が所属する「未来の福島こども基金」と DAYS JAPAN 測定器支援募金との共同で

福島市といわき市の2か所の市民放射能測定所に簡易型ホールボディカウンターを贈呈し、測定をしています。公開が原則で、個人にデータを渡しています。

内部被ばくのデータが高い人が少数いますが、それだからと言ってすぐ病気になることはないで、内部被ばく線量を減らす努力をするようにと助言しています。がんの発生は潜伏期間があり、大人で10年、子どもでも数年はかかります。

そこで私たちは、沖縄に保養所を作り、福島の子どもたちを招待することにしました。7月8日にオープニングセレモニーを行い、すでに3グループ150人の母子が保養しました。すべて広河隆一さんのアイデアと多くの人たちの努力でオープンしましたが、いつまでお金がもつか判りません。ベラルーシの経験から、24日間の保養で内部被ばくのセシウムが20%減少することが判っています。

鹿児島にいる子どもたちは恵まれています。内部被ばくがあったとしても、時間が経つにつれ減少していきますから。その子たちに今すぐ何かすることは、その子たちの家族の社会経済的面の支援だと思います。

避難して移住した人たちに対しては、その人たちの悩みを聞いてあげることが一番ではないでしょうか。そしてその人たちを支えて行く人や医師がいることが大切だと考えています。それが移住者の人たちを安心させることにつながると思います。今言えることはその位しかありません。診療や検査はもう少し時間が経たないと生きてきません。お答えになったかどうか判りませんが、このくらいのことしか言えないのです。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>

=====★=====☆=====★=====

(注)鹿児島の小児科医師より、避難してきた人たちに対してどのような対応をしたらよいか?との問い合わせがあり、黒部ドクターに答えていただきました。

# ふくしま便り

球美の里第2次保養に福島からのスタッフとして数日遅れで合流しました。

山の中腹に建つ球美の里・宿泊棟ベランダからは、碧い海、青い空、緑の島が一望です。子どもたちが元気に賑やかに暮らす中に飛び込みました。

海水浴、竹細工教室、焼き物教室、サッカー交流試合、島内の名所めぐり等などのプログラムから帰ってきての自由時間も、毎日いろいろな個性・出来事が現われました。

宿題に励んだり、図書館で静かに過ごしたり、赤土と水をこねてみたり、バッタを捕まえたり、泣いたり笑ったり…。

ある日は、宿舎の建物すぐ横のシークアーサーの樹で大盛り上がりになりました。きっかけは樹の高いところに引っかかったボールを、靴を投げて落としたことだったそうです。靴に長い紐を結びつけて投げ、うまく枝に当たるとシークアーサーの実が落ちてきます。次々と他の子も寄って来て並んで順番に、投げては拾って、また投げては外れたりと飽きずにずっと繰り返します。そして皮を割って中身を味わってまた歓声。室内でおとなしく遊んでいた子どもまで、いつの間にか実を手にしてこわごわ口に運びます。「酸っぱい！だけど美味しい！！」厨房の久米島の方に伺うと、まだ時期が早くて、これからもっと大きく甘くなるのだそうですが^\_^ その日の昼食のフライに全員2切れずつ添えてくださいました。みな大喜びで食べたのは言うまでもありません。

実はこの期間は台風の接近が相次ぎ、楽しみにしていた海遊び2回め3回めが延期～中止となってしまいました。急きょ受け入れていただいた「ホタル館」「自然観察センター」では、ネイチャーゲーム、川の生き物、そして地元の子ども達の川ガキっぷりに出逢うという体験もしました。

また、沖縄のお菓子作りや貝を使った工作を地元の方が材料持参で来て教えてくださったこともありました。数え切れない方々のお世話になりました。ありがとうございます。

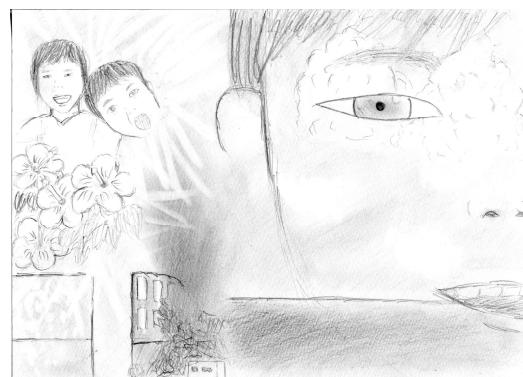


終盤のある日、教会のコーラスサークルの方々のコンサートの時、後ろについていた私は感慨が湧き涙が止まりませんでした。その他は明るく元気に頑張りました。なにしろ放射能の心配が無かったので！

大賀あや子(福島県大熊町～～会津若松市)

★福島の子ども保養プロジェクト「沖縄・球美の里」では7月26日から8月10日まで16日間にわたって第2回目の保養が行われました。保養に参加したのは福島の子どもたち49人です(つきそい2人含む)。今回、保養プロジェクトボランティアスタッフとして参加した大賀あや子さんに滞在中の体験を報告してもらいました。大賀さんはご自身が福島震災の被災者で避難者でもあります。

\*来年度のカレンダーには、上記期間に保養した子どもたち4人から絵を寄せいただきました。



「絵を送ります。球美の里、久米島で笑っている子ども達を書きました。しかし、自分やその子ども達の笑顔の背景に、原発事故が起ったということを伝えられるよう、こわれた福島第一原発を書かせていただきました」

(村上峻 15歳 福島県)

(注：村上さんの絵はカレンダーの最終頁“球美の里”紹介の部分に掲載しました。一番上の絵は会田もえちゃん(7歳)の2枚目の絵「パパとママともえのみらいのいえ」です。1枚はカレンダーの8月に掲載しています)

## Chernobyl's Voice ~from the heart~

### <3月 啓明学園初等学校で理事の小寺が行った講演の感想>

◆核兵器や原発事故で身体的にも、精神的にも多くの人々が傷つきました。そして、今も傷ついている人々がいます。一番私が疑問に思うことがあります。それは、何故、広島・長崎で核の被害をたくさん受けたのに、「核の平和利用」と言って原子力発電所を作ってしまったか、です。その「核の平和利用」で今、大変な事が起こっているというのに。そして現在原発からの電力供給が、ほとんど無くとも十分に生活していくのに。

◆東日本大震災のようにいつ地震がきて、津波がきて爆発するか、なんてみんなわかりません。安全を確保して楽しく暮らすのなら、核を使わずにいることだと思います。今、福島で、核による放射能被害で苦しんでいる人達がいるのに、これ以上被害で苦しむ人達をだすのはいけないと思います。

### <5/31 東京女子大学で事務局の佐々木が行った講演の感想>

◆事故の影響として子どもたちがこれ程までに被害を受け、現在もなお被害を背負い続けているという事実はとても衝撃的でした。人体の構造として被曝の影響が子どもたちに多くでてしまうという事実はとてもショックなことで、そうした子どもたちが人生を通して長く付き合わなければならぬ重大な病気の数々や、若くして亡くなってしまうことを知り、これまでの自分の無知・無関心さにとても腹立たしい気持ちになりました。

◆福島だけでなく日本の子どもたちのこれからが心配です。「子どもを産むのが怖い」「子どもをつくるかどうかは、まだ決めてない」事故の影響を身をもって知るのは、実際に自分が病気になったり、産まれた子どもに障害が出たときだと思います。目に見える影響を感じられないからと事故の記憶を風化させてはいけないと強く感じました。

◆内部被ばくの問題は深刻だと感じた。年数が経てば経つほど被害者の生活は過酷になるのだと

思った。結婚できる年になると子どもを産むか産まないかの選択はつらいだろう。さらにつらいのは自分の子どもが自分のせいで病気になること。毎日が死と向かい合わせだ。福島の事故から1年ちょっと経ち、報道も少なくなってきたが、本当に苛酷になり、生活や生命に大きな影響が出てくるのはこれからなんだと認識した。日本の子どもにも万が一病気になった時にも耐えられるような体づくりをするために、保養施設や運動が必要だと思った。

◆風に乗って 600 km以上離れた場所にまで放射能が飛んでいくということを初めて知った。離れているから大丈夫ということではないのだということがわかった。 Chernobyl のお話を聞くことによって福島原発がどのようなものか、これからどうなるのかということがわかった。お話を聞くつど、自分がいかに原発のことを軽く見ていたかということを思い知った。自らすすんで情報を集めていくべきだと思った。

### <8/25 戦争を語りつぐ会(東京保健生協組合練馬東支部)で佐々木が行った講演の感想>

事故から26年たった今も、放射線による病気が現れていて、子どもたちを苦しめている現実を知りました。2004年カレンダーに描かれていた少年の絵の首には甲状腺の手術跡があり、「私を見ないでください」と書いてありました。 Chernobyl は福島原発事故によりこれから起こりうることへの警鐘ではないでしょうか。過小評価せず健康被害を拡大させない施策、努力が求められています。(東京都 Kさん)

### <お手紙、振込用紙のメッセージ>

◆ Chernobyl 事故から学ぶべき事もできず、日本も現在大変な状態ですが、明るい未来を築いていく努力は続けていきたいです。

(東京都 Tさん) ◆福島の子どもたちも大事、 Chernobyl の子どもたちも大事です。何人かでも保養できれば。(島根県 Yさん)

→< Chernobyl の歌声>次頁に続く

# \* \* \* \* \* 募金・救援状況 \* \* \* \* \*

## ●募金状況 2012年6月～8月

(単位:円)

|             | 6月             | 7月               | 8月               |
|-------------|----------------|------------------|------------------|
| 募金件数        | 121件           | 209件             | 71件              |
| 救援寄付金       | 591,227        | 699,670          | 1,749,796*       |
| 保養費         | 36,500         | 129,500          | 42,300           |
| 特別保養費       | 70,000         | 105,000          | -                |
| 里子支援        | 119,140        | 1,302,415        | 429,370          |
| 医療機器支援      | -              | 29,000           | -                |
| ニュース購読費     | 44,000         | 62,000           | 12,000           |
| 26周年イベント賛同金 | 10,000         | -                | 4,000            |
| <b>合計</b>   | <b>870,867</b> | <b>2,327,585</b> | <b>2,237,466</b> |

\*(株)カタログハウスより運営費として募金150万円含む

☆ほかに現物寄付としてギフトカード3,000円分

## ●救援状況 2012年6月～8月

(単位:円)

### <ウクライナ>

### ◎子どもたちの生存

里子支援 10人(7～12ヶ月分) 239,730

緊急支援 4人(7～12ヶ月分) 97,632

### <ベラルーシ>

### ◎希望21

特別保養費(子どもの保養後期分) 503,380

### ◎困難の中の子どもたちへ希望を

特別保養費(子どもの保養バス・保険代) 117,555

里子支援 59人(7～12ヶ月分、追加支援) 1,450,188

緊急支援 10人 238,968

運営費(スタッフ給料 7～12ヶ月分) 167,370

### ◎チェルノブイリのサイン

里子支援 5人(7月～13年6ヶ月分) 237,780

## ♥ 募金団体名一覧 ♥ (順不同・敬称略)

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

【6月】 トランスフェリックマネジメント／子どもの未来社／日本キリスト教団 広島船越教会／(株)ジョイメイト／ヒーリングスペース レイ／東用堂治療院／(医)創生会 真岡西部クリニック／T.Mヨオガ楽園／(有)ドライサポートアンドサービス／特定非営利活動法人 広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会

【7月】 リサイクルグループ カリーナ／ケイ歯科クリニック／つゆくさと大地の会／(株)ジョイメイト／自治労日野市職員組合／第10回 平和と環境を考える Day／チェルノブイリ子ども基金奥羽／三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金／イエス・キリスト教会 祈りの家／トランスフェリックマネジメント

【8月】 品川平和のための戦争展／(株)カタログハウス／トランスフェリックマネジメント／(株)ジョイメイト／(株)音楽センター

**-----  
2012年版救援カレンダー収益より  
「未来の福島こども基金」へ寄付-----**



収益より 500,000円 を福島の被災者支援として「未来の福島こども基金」へ寄付いたしました。

一前頁からのつづき ◆事故から10年以上過ぎて病気が多くなった事、その時子どもだった人が親になり親子で病気になっている事にビックリ。福島の10年後が本当に恐ろしく思えてしました。日本の原発のある所では何年前から少しづつ病気が出ている事も知りました。負の遺産をこれからの方たちに渡すのではなく、できる所から動き出そうと思っています。チェルノブイリ福島が今年ほどしっかりつながった事はありません。(東京都 Sさん) ◆(前略)この夏は、縁あって「球美の里」の保養プログラムに参加することができ、貴重な体験をたくさんさせていただきました。始めは不安だった子どもも、2週間後には友達と名残惜しそうに手を取り合って言葉を交わしていました。身体の保養はもちろん、精神面での成長を感じ、親として嬉しく思っています。本人に聞いたところ

ろ、飛行機から久米島が見えた時の風景、そして球美の里で過ごしたことが印象に残っているということで、その景色を描きたいとのことでした。ご期待に沿えるような作品になっていないかもしれませんのが、選考の対象の一つに入れていただければ幸いです。福島ではまだまだ制限ある中で新学期が始まりました。通学路の除染などは十分に進んでいません。そんな中でも、明るく前を向いて、さまざまな選択をしながら生活していくことになると思います。たくさんの方々の支援があるということに感謝し、いつかその思いやりをお返しできるような人間に育っていってほしいと思っております。(2013年チェルノブイリ救援カレンダーに絵をよせてくださった Kさんの母親) 注:2枚送っていただいたうち1枚をカレンダーに掲載しました。

# 事務局から

## ■ボランティア募集

◎事務局では、毎月第1・3 土曜日の午後1時半～5時、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていました。少しの時間でも歓迎です。

## ◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 日時:12/15(土)午後1時～4時頃まで  
場所:東京ボランティア・市民活動センター  
(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。

【問い合わせ】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

## ■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

## ■寄贈品のお礼

三重被曝児童救援募金様よりいただいたキーホルダー・ハンカチ・ペンは、ウクライナとベラルーシで保養をした子どもたちへ、藤田進様よりいただいた大相撲カレンダーは、ベラルーシの保養所「希望21」に渡されました。ありがとうございました。

## ■チエルノブイリパネル展示

事務局では、チエルノブイリの子どもたち・親子の写真パネルを貸し出しています。下記の2か所で展示されました。

★8/9～8/12 「品川平和のため戦争展」(品川区民ギャラリー) 主催者から:子ども基金のパンフレットは会場で全部配ることができました。チエルノブイリのパネルは新しいものもあり助かりました。福島の子どもの生の声も集めて展示しました。



★8/2～8/30 「平和を語り継ぐ三世代の会 いなぎとヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・チエルノブイリ・フクシマをつなぐ」(稻城市城山体験学習館)

主催者から:チエルノブイリの子どもたちの写真に見入る親子連れなど、今となっては、フクシマと重ねてみる方が多くなり、原発も原爆と同じように怖いということを分かっていただけたかな、と思っています。

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願ひです。

### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書がご入り用の際はお申し出ください。

### <編集後記>

毎回ニュースの発送作業を行っている東京ボランティアセンター。予定していた土曜日がちょうど祝日と重なり、休館日でした。そのため作業日は急遽翌週に変更。ボランティアのみなさまには、急な変更でご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。(事務局)

## ●チエルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680  
ウェブサイト=<http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: [cherno1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:cherno1986@tokyo.email.ne.jp)  
事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>  
※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。